

体育大会を終えて②～みんなの作文より～

勝利した時の歓声や、全力で戦って帰ってきた仲間に「おつかれ！」と声をかけるクラスメイトを見て、僕は体育大会で「仲間って良いな」と改めて思った。観覧中に一緒に応援し、一緒に喜べる仲間、結果を残せずに帰ってきた自分を、誰一人責めることなく「おつかれ！」と励ましてくれた仲間がいて、僕はとてもうれしかった。勝利を分かち合えない、全力を尽くして帰ってきた仲間に何の言葉もかけない、ましては責めるようなクラスが、体育大会はもちろん、今後の行事もうまくいくはずがない。でも僕は少し自信がついた。「この最高の仲間とこなす行事なら必ず成功する」と、これからがとて楽しみにになった。

僕のクラスでは表彰状が1つしかなかったけど、この仲間とともに取った表彰状は、とても特別なものに見えた。このクラスで、この仲間たちと過ごせる残された時間は半分を切り、半年ほどだが、この少ない時間で将来の仲間に話せるような最高の思い出を作っていきたいと思う。
(2組)

この体育大会で、改めて「感謝」について考えました。この日のためにしんどい仕事をしてくれた先生や委員会の人たち、「しんどいね～」、「暑いな～」と声を掛け合った友達。そんなことを言いながらもその友達がいなければここまで頑張ってこれませんでした。私は4×100mリレーに出場しました。次の人にバトンを渡す10mぐらい前のところでこけてしまいました。その時点で抜かされ、足や手も痛いけどとにかく次の人にバトンを渡したい思いで、4走のアンカーにバトンを渡しました。普通だったらアンカーだし、慌てているはずなのに、私のチームの4走は「大丈夫？」と声をかけてくれました。退場するとき、「自分のせいで負けたんだ」と思っていたら、ほかのクラスの4×100mの走者やクラスの人が駆けつけてくれて、心配してくれました。水道まで洗いに行くのを手伝ってくれたり、なぐさめてくれたりして、私はみんなの優しさがとてもうれしかったです。席に戻ると声をかけてくれたり、体育委員で忙しいのに救護テントまでついて行ってくれた人もいました。体育大会を通じて、私はやっぱり「感謝」が大切だと思いました。
(2組)

私は今年の体育大会では体育委員として、また、マスゲームリーダーとして約2週間の練習に取り組み、本番に挑みました。特に心に残ったことがあります。それは体育大会を終えた後の達成感とあるクラスメイトの言葉です。私は2学期の体育委員となり、その中からまたリーダーとして、学年やクラスを引っ張ってきました。大変で疲れたと思う日々をおくったこともありましたが、それを乗り切ったからこそ、誰よりも強い達成感を味わいました。そして本番を終えた後、リーダーが一言、前に立ち感想を言いました。その中の一人が「結果なんて関係ない、みんなでできたからよかった」と聞いて確かにと思い、また一歩みんなのおかげで成長することができたと思います。(4組)